

校長室からこんにちは!

No. 28

1月24日

発行者 中田 禎二

金子みすゞ，花の心

～花屋の爺さん～

花屋の爺さん
花売りに、
お花は町でみな売れた。

花屋の爺さん
さびしいな、
育てたお花がみな売れた。

花屋の爺さん
日が暮れりゃ、
ぽつり一人で小舎のなか。

花屋の爺さん
夢にみる、
売ったお花のしあわせを。

～灰～

花咲爺さん，灰をくれ、
箆にのこった灰をくれ、
私はいいことするんだよ。

さくら，もくれん，梨，すもも、
そんなものへは撒きやしない、
どうせ春には咲くんだよ。

一度もあかい花咲かぬ、
つまらなそうな，森の木に、
灰のありたけ撒くんだよ。

もしもみごとに咲いたなら、
どんなにその木はうれしかろ、
どんなに私もうれしかろ。

「みすゞ コスモス 2」
矢崎節夫 著
(JULIA出版局)より

「花屋の爺さん」が売った花の幸せを思うとは、花を買ってくれた人が花を見て、幸せな気持ちになってくれるといいなと願う心。花にとっては花を見た人が幸せになってくれない限り、花の幸せはありません。と、矢崎氏はこの詩の主題を述べています。

「灰」は、まさにみすゞさんを思わせる詩です。

1月18日(金)オープンスクールの午後は親子で「花育」、フラワーアレンジメント。花と楽しい対話をしながらホールは幸せな気持ちに包まれていきました。私は、かつて、花を育てることは人権意識を高めると聞いたことがあります。今回の教室を通して、改めて心を育てることとは何ぞやを学びました。

校長写真館



あと1週間で運動会です。素直なドーハっ子たち、練習の成果としての表情の変容が窺えます。

ちょっとお耳を...

運動会のたびに思い出すM君の言葉。

「先生、ぼく運動会嫌いです。」

運動が苦手でもなかなかこの発言にはならない。
私は「いいよ、好きにならなくても。でも、やるべきこと、自分にでききることはやろう」と言った。

私にそう言わしめたのは、彼が友達の前に入ることが苦手。確かに運動が得意でない。と評価しながら、彼の思いを十分受け止めていなかったことに気付いた、その瞬間の私なりの取組みだった。

M君のほっとした表情が今も残っている。